

東京都精神保健福祉家族会連合会

(東京つくし会)

〒156-0056 世田谷区八幡山

3-33-1 林マンション301

TEL/FAX:03-3304-1108

<http://www.ttsukush.sakura.ne.jp/>

発行者 眞壁 博美

2021.10.15 第375号

つくしだより



令和3年10月号

2021みんなねっと東京大会
を準備して思うこと

都連副会長 植松和光

新型コロナウイルスでの思わぬ展開

2021みんなねっと東京大会の準備を始めたのが、2020年1月でした。その前年の12月に中国の武漢が発生源とされる、新型コロナウイルスが日本でも発表された。

しかし、私たちは、当時今のよう
な状況になるのは考えることもなく
着々と準備を進めました。

私たちは首都東京で全国の皆様を
お迎えするには、それなりの会場と
会場へのアクセスを考える必要があ
ることを基本に、主要な千名程度の
会場を探しました。しかし、この時
には、既に主だった会場は塞がって
いました。やっと早稲田大学の大隈
講堂等をお借りすることができ、何
回も下見を重ね、大会全体会、分科
会の準備をしてきました

しかし、2回目の緊急事態宣言中
の2月にみんなねっと三役と都連の
三役で全国大会を開催するか中止す
るかについて話し合いを行いました。
昨年の宮崎大会に続き2年連続して
大会を中止することを避けるため、

コロナ禍でも開催可能な大会のあり
方を考えていくことになりました。

その結果、オンライン併用会議を
持ち、東京大会をどうするかについ
て話し合いました。そして、早稲田
大学での大会は中止する。他の会場
を確保し改めて日程を調整すること
になりました。

今回の開催方法は、

① 全体会をオンライン開催とし、
会場参加は東京都連のみ。

② 分科会はオンラインではなく、
会場参加で、全国からの直接参
加としました。

オンライン申し込みがこれほど大変
だとは

道府県連家族会の皆様を始め、多
くの家族の皆様が、スマートフォン
やパソコンからのオンライン参加な
んでやったことはありません。

皆様に、月刊みんなねっと誌や大
会開催案内が届くと、東京つくし会
の電話は鳴りっぱなし、長い人だと
1時間、同じ画面を見ながら、説明、
しかし、アカウントってなに、アド
レスがわからない、もう忘れた等、
のことが大半の問い合わせでした。

しかし、ようやく申し込みができ
ましたとお礼の電話をいただくこと

もあつたようです。

現代の世の中、SNS等が当たり
前の世の中になってきていますが、
わが家族会はまだまだ難しいことを
実感しました。それと、オンライン
と会場直接参加を実施するというこ
とで、同時進行で二つの準備をしな
ければならず、大会を二つやったよ
うにとっても大変でした。

今回の取り組みの教訓は、まず、
皆さんがメールアドレスを取得する
などしてパソコンやスマートフォン
等に慣れることです。

せっかくメール登録をしても
一週間も開けてみないなど、まだま
だ、紙でないとダメの方が多いこと
でした。

そのような中でも、オンラインで
の申し込みが300名を超える状況
となりました。

皆様、これから、オンラインが日
常的になると思います。家族会でも
そのような対応をしていかなければ
ならない時になりました。

是非、わたくしたちも、家族会活
動の変化を考えてもいいのではと思
います。

全国の皆様の大会への協力に感謝
いたします。

児童・思春期病床の新設を！

(練馬すずしろ会の要望)

都連理事 松沢 勝

練馬すずしろ会は、この度、練馬区来年度予算への要望事項を区議会各派へ提出しました。

その中で、新しい要望事項として「精神科思春期病棟を作って欲しい」を挙げました。要望事項4はつぎの通りです。

「精神疾患の半分は14才までに、残りの半分のうち四分の三が24才までに発症することが調査から判っています。そのなかで、思春期世代、中でも16〜19歳の人が入院できる精神科の病院は殆どありません。

以下の、練馬区の現状を踏まえ、児童青年精神科医の増員を図りながら、アウトリーチ事業による病める思春期世代が利用出来る病院新設を検討して頂きたい。

即ち、

練馬区は200床以上の病院が3病院、200床未満の病院が14病院となっています。人口10万人当たり200床以上の病院数は0.4で、23区の1.1の約3分の1となっています。

一方、精神病床については区内病院数3病院で、全部で1209床あります(平成24年6月1日現在)。練馬区の人口10万人当たりの精神病床数は173.5で、

区部平均 87.7と比較し2倍高くなっています。(平成24年6月1日現在) この3病院は区の西部に位置しています。

夏刈郁子先生(児童精神科医・医学博士)

著「精神科医療の七つの不思議」(ライフ・サイエンス出版)は、精神科思春期病棟が必要な理由を次のように述べています。

① 児童精神科の対象は、10〜20才の患者

が大半で、その多くに不登校がある。そして、診断をしてみると発達障害からくる学校不適応をおこしたが、往時はその診断名がなかったため統合失調症と診断されて入院となった人が沢山いる。その現代版が「引きこもり」である。

思春期の発達課題は「家の中から外へ」である。家族関係から飛び出して、他者との密接な関係を築いていくことである。

②

思春期医療では「入院」が大きな意義を持つ。入院の利点は24時間、患者の様子を観察できることである。コミュニケーション能力が、年齢に比して幼いひとが多いなかで、入院という緩やかな時間枠の中で行動を観察することで、実際の生活でなにが欠けているか探ることができる。

このような重要な役割を果たす「思春期病棟」が全国的にみて極めて少ない。

以下は首都圏の病院である。

・埼玉県立精神医療センター
・千葉市立青葉病院
・医療法人財団 青溪会 駒木野病院(八王子)

・東京都立小児総合医療センター(府中)
・神奈川県立こども医療センター(南区)
・医療法人弘徳会 愛光病院(厚木市)
・横浜カメリアホスピタル(旭区)

・一般財団法人聖マリアンナ会 東横恵愛病院(川崎市)

③ 小児人口10万当たり児童青年精神科医数は、日本12.9人、ドイツでは18人、フランス、オランダでは22人、スウェーデン23人、フィンランド41人、スイス55人(ME2008年)で、日本の児童青年精神科医の不足は深刻である。

④ スタッフは「第二次性徴」(生物学的性差)に対応するためにも、産婦人科医、泌尿器科医との連携が必要。また、ソーシャルワーカー、教育関係者も必要。

⑤

最近、性同一性障害として受診される方の訴えが、精神疾患の前触れとして現れている。患者が訴える現在の「性の違和感」だけでなく、幼少期からの「主観的な性別」を観察して、「切れ目の無い医療」を心掛ける。





進むアウトリーチ事業と「せたがやノーマライゼーションプラン」

世田谷さくら会 丸山 美恵



世田谷さくら会の長年の要望でもあった「アウトリーチ支援事業」が、2019年6月から世田谷区で始まった。世田谷区は約94万人の人口を抱えて、世田谷保健所と各支所の保健福祉センター5地域に分かれているが、世田谷保健所に保健師、精神保健相談員、専門医師の多職種チームを配置してスタートした。まずアウトリーチは2019年度3地域で始まり、2020年度から精神保健相談員を増員して区内全域に広がった。

2020年度からはアウトリーチ支援事業に加えて、措置入院者退院後支援事業もスタートした。

これまでの実績は2019年6月～2020年3月（10ヶ月間）で支援事業実施数28件、訪問実施数（延数）は精神保健相談員184件、専門医師3件、保健師との連携件数616件。

2020年4月～2021年3月は新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中でも、支援事業実施数35件、訪問実施数（延数）は精神保健相談員256件、専門医師4件、保健師との連携件数752件だった。措置入院者退院後支援問合せ件数は2020年度23件でアウトリーチにつないだ件数は5件。数字からも

アウトリーチ事業の必要性が明らかになっている。

加えて、2021年度の「せたがやノーマライゼーションプラン」（令和3年度から令和5年度までの世田谷区障害施策推進計画）にも世田谷区の3つの家族会で長年要望してきたことが盛り込まれた。主な項目を抜粋すると

◆住まいの確保支援の充実 ◆入居促進のための施策及び賃貸住宅所有者への理解・啓発
◆日中の居場所づくりの充実 ◆多様な精神障害者の日中の居場所づくりの展開。

従来の通所施設とは異なる日中活動の場の整備や地域施設の活用、地域の社会福祉協議会と連携した居場所（カフェ等）など、それぞれのライフスタイルに応じた日中活動の展開に取組みます。話を聞いてくれる相手がいる場や、人との交流が苦手な利用者が交流や活動を促されないで、その場にいること自体が尊重される場、余暇活動プログラムの提供がある場など、個々の特性や状況、ニーズに応じた多様な精神障害者の日中の居場所づくりとともに、それらを支える支援者の人材育成に取組みます。

◆家族支援の拡充 ◆グループホームの1室を活用したレスパイト機能の整備や、障害当事者への対応を家族任せにしないための個々の状況に応じた支援チームづくりの推進など、◆家族支援の拡充

◆精神保健福祉に係る相談支援の充実
こころの健康相談、夜間・休日等こころの電話相談。

◆多職種チームによる訪問支援 保健師や精神保健相談員、医師等で構成する「多職種チーム」が、地区担当保健師と連携し、支援が必要な未治療や治療中断等の精神障害者等への訪問支援を行います。また、措置入院の機会をとらえ、退院後の支援の計画化を図り、疾病の再発防止や社会復帰の支援を行います。

◆ピアサポーターが活躍する機会の拡充
夜間休日等こころの電話相談や長期入院患者の退院への動機づけ支援事業への配置と育成体制の整備 精神障害当事者が自身の病気や障害を経験してきたことを強みとして活かし、当事者だからこそ分かり合える気持ちに寄り添った支援を行う、「こころの相談機能の整備」で実施する夜間休日等こころの電話相談（ピア電話相談員）や、「精神科病院への長期入院患者の訪問支援事業」における長期入院患者の退院への動機づけを支援するピアサポーターを配置するなど、当事者が地域で活躍する機会の拡充に向けて取り組んでいきます。

このプランがプランで終わらないようにこれからも具体化に向けて要望していきたい。

風のおくりもの

都連副会長 本田 道子

朝の目ざめ、とほとんど同時に窓を開ける。すぐに目の前の公園の緑が目飛び込んでくる。そして青い空。

この公園は以前ここに住んでいた方が渋谷区に公園として使ってほしい、とご寄付されたもの。

藤棚の緑が存在感を示している。午前中は近所の保育園のちびっこたちが遊びにやってくる。なんとも可愛くてたまらない。

渋谷の町のちいさな公園。

周りにはみな高いビルの中この公園の上には空があるのだ。

青空に浮かぶ雲は私の友達。

雲のゆくえをただひたすら眺めているのは私の最高のいやしの時間。

時のたつのを忘れる。

雲は自分では動けない。風がたよりだ。

そして片時も同じ形ではいられない。

風まかせ、の雲の運命。

そんな雲が愛しくて、私は今日もぼんやりと

雲の行方を追いかけている。



★講演会のお知らせ★

○みんなでやろう家族SST

日時 11月6日(土) 午後1時半〜4時

講師 高森 信子氏

会場 二幸産業・NSP健康福祉プラザ

5階 視聴覚室 申込不要

主催 サンクラブ多摩 ☎042-371-3380

○こころ支える地域を目指して

〜ある方の生活を通して〜

日時 11月21日(日) 午後1時半〜3時半

講演 「こころの病の今と昔」

講師 NPO法人エナジー本舗理事長

行成 裕一郎氏

インタビュー 精神の病から得たもの

オンライン(ウエビナー)開催

主催 共生のための文京地域支援フォーラム

実行委員会

申込・問合 文京槐(えんじゆ)の会

☎03-3943-4300

○統合失調症臨床の経験

〜心の平和をめぐって〜

講師 神奈川県藤沢市 工藤メンタルクリニック

院長 工藤 潤一郎氏

日時 11月24日(水) 午後1時半〜4時

会場 高円寺障害者交流館1階

予約不要

主催 杉並家族会 ☎080-1004-1197



編集後記

この編集後記を目にするのは東京大会終了後になると思いますが、今日は10月1日(金)東京大会直前の最後の理事会。よりによって強力な台風が関東にも接近しており朝から強い雨と風。「まいったな」と思いながら電車に乗り込む私。緊急事態宣言が解除された初日だがやはり朝の通勤時間帯の電車はかなり混むので、毎回電車に乗るのは気が乗らない。青梅から東京田町の会場までは2時間。本当に遠い。1時半前に会場につき他の理事たちもぼちぼち集まってくる。私は大したことはやっていないが1人足らずの理事達や事務局が協力して大会の準備を行ってきた。皆お疲れモード?(毎回頭が下がる)まだコロナ禍だがリモートも取り入れながらの東京大会。何とか無事に(絶対に感染者を出さず)実りある大会になってほしいと願う。さて秋近し、青梅、私の住んでいるところは緑が多く、多摩川沿い。朝夕虫の音が程よく聞こえてくる。時にはうるさいくらい。ちよつと物思いにふける。コロナは人のつながりを分断させてしまったな。何かの警鐘なのだろうか。オンラインは進むかもしれないが、改めて人と人がじかに触れあうことの大切さに気づけという事なのだろうか。ゼロコロナは望めないがウイズコロナのこれからは人と人がつながる真価の問われる第2ステージなのかもしれない。

都連理事 中住 孝典

つくしたよりは赤い羽根共同基金の配分を受けて発行しています。